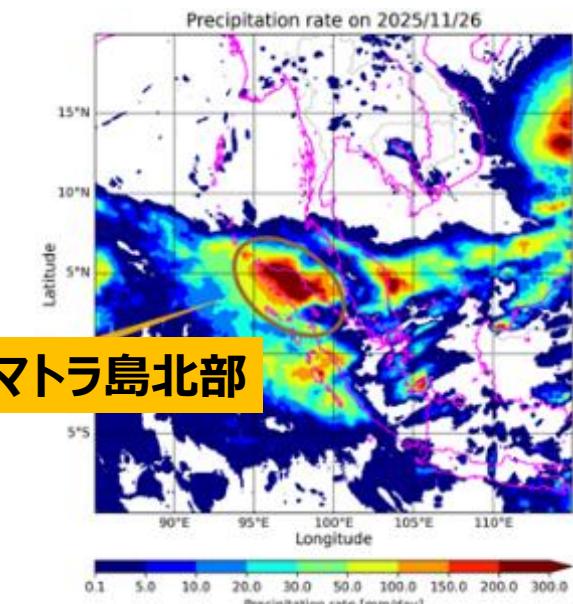
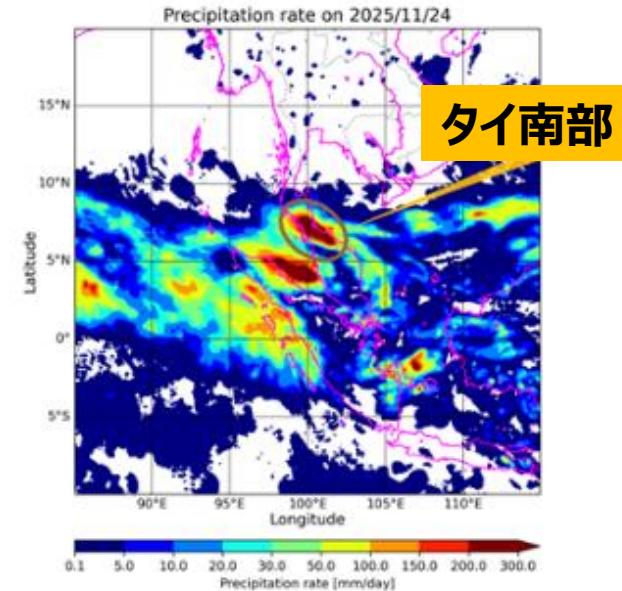


気候危機が現実となる中でも増え続けるCO₂

国名	総量(百万トン)	前年比
世界全体	37,800	+0.8%
中国	11,172	+2.0%
アメリカ	4,619	▲0.5%
インド	2,952	+5.0%
ロシア	1,681	+1.0%
EU	1,005	▲2.9%
日本	3,200	▲2.0%
ベトナム	334	+14.0%

東南アジアの洪水・土砂災害：被害概要(2025年11月)

項目	データ
主な発生期間	2025年11月中旬～下旬
主な影響要因	熱帯低気圧「セニヤール」、モンスーン(季節風)の活発化
影響を受けた主要国	インドネシア、タイ、マレーシア、ベトナム、フィリピン (※スリランカ等南アジアも含む)
死者・行方不明者	複数の国で合計600人以上
被災者・影響人口	合計400万人以上
経済的損失	ベトナム中部で約5.22億米ドルの初期損失推定



気候変動対策は自主的から法規制に変化

これまで

削減の目標も対策も自主的に立てる
罰則もなく、成果に対しては風評をあげるという目的が大きかった。



これから

GX推進法の成立

GX-ETS(排出量取引制度) : キャップの設定(2026年度より)
有償枠の設定(2033年)

環境税の導入(2027年度)

金融庁

ISSBJの改正

時価総額によって順次、気候変動対策に対しての開示義務が発生(2026年度から)

重要なのになぜか関心が低い気候変動問題

気候変動問題の捉えられ方

2025年は大きく法改正もあり、大きな変化が訪れると各種講演などでも発表してきたのですが…

一般のひと

1. 遠い未来の話し(時間軸)
2. 問題が大きすぎる(スケール、広さと深さ)

指導的な立場の人たち

- 官僚は危機感を持つつも、政治家にとっては票にならない話題。
- 経済界にとっても、コストがかかる話しであって儲からない話題。
- 学識にとっても、専門分野の学者が少ない分野。



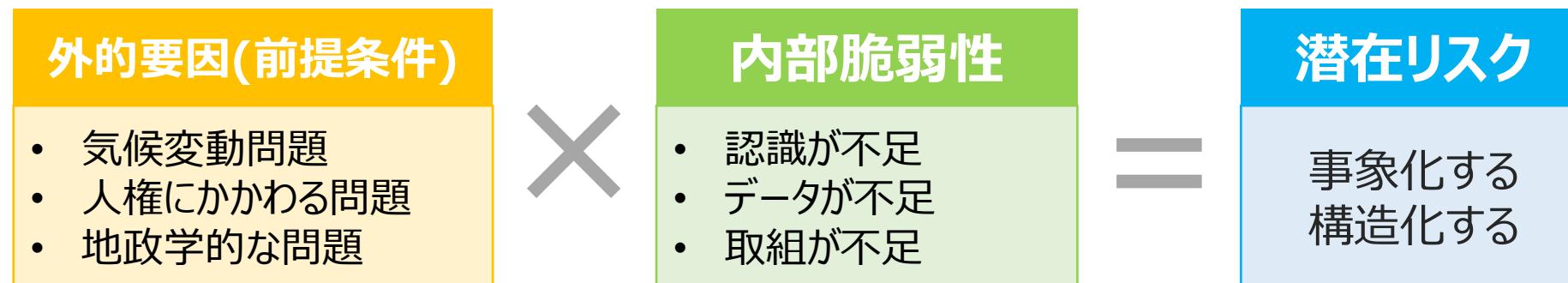
ひとりの人間がなにか考えたり行動しても、何の影響も与えることができない。
えらい人たちが考える話で、自分には関係がない。

リスクという言葉の使われ方

最近の“リスク”的使われ方…取り組んでいるプロジェクトに関して、リターンの不確実性



これからは、長期的な外的要因変化を前提として、その要因に対する対策が出来ているか



気候変動対策がコスト一辺倒なのか、リターンを生み出すことができるのか？は考え方次第